

指導案をもとに目の前の子どもにふさわしい授業を

私の大学院時代の恩師の一人が、最近の授業の中で、これまでの学習指導要領の改訂は、「具体的な社会の変化、『現状』に対応すること」が目的で行われていたが、今回の改訂は、「予測不能な未来への対応」ができる人材の育成を目指したものといえると繰り返し話されていました。

予想可能な目の前の事項・課題に対して、これまでの事例をもとに対応できるような能力ではなく、予測不可能な課題に柔軟にかつ適切に対応できる資質・能力の育成が求められているということです。これは、単なる how to の集積では解決できないといつても過言ではありません。

もちろん発達段階に合わせてという前提はあるものの、子どもたちには、より高次の知識・技能およびそれを活用することができる力を身につけさせることが必要なのです。新学習指導要領で挙げられている三つの柱「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」は、それを実現させるためのキーワードとなっています。

しかしながら、こうした資質・能力は、教師が子どもたちを指導する際に留意すべきことであるのと同時に、教師自身も、その能力を有しておかなければならぬということです。

今回の学習指導要領改訂では、第3、4学年での外国語活動、第5、6学年での外国語科の導入となり、英語教育改革は新しい段階へ進んでいます。

本書は、文部科学省が提案した新教材 “Let's Try！” をもとにした活用例の集約です。しかし、すぐに使える単なる指導案例集として本書を開くのではなく、授業づくりにおいて大切にしているものが何で、それがどのように具現化されているのかという視点で、本書の指導案例を参考にしていただきたいと思います。

なぜその活動がそこにあるのか、活動の目的は何か、Unit全体でコミュニケーションの場面設定は適切であるのか等、是非、批判的に本書を活用していただきたいと考えています。

提案された指導案例は真似すべきモデルではなく、あくまでも一例にすぎません。指導されている子どもたちにとってよりふさわしい授業を実現できるのは、先生方自身です。

本書を通して得られた授業づくりのためのメタ知識・技能は、将来教材が変わったとしても活用できる力として有意味なもの足り得ると思います。それをまた先につなげるという意識で本書を叩き台として活用していただければ幸いです。目の前の子どもたちと未来の子どもたちのために。

広島大学大学院准教授 兼重 昇

初めて外国語活動を担当する先生方へ

今般（平成29年3月）の学習指導要領改訂の背景には、グローバル化の急速な進展に伴う「授業の質」の変化が求められています。東京オリンピック・パラリンピックなどのインバウンドにおける英語使用も見込まれる時代を生きていく子どもたちには、知識を活用し、外国語を用いて世界の人々とコミュニケーションを図る力を育む必要があり、授業を通して、多様な人々と協働し、新たな価値を生み出せる人材を育成することが求められています。

外国語活動は、平成20年3月告示の学習指導要領により小学校高学年に導入されて以来、学級担任や専科教員の先生方に学校現場で育てていただき、小学校における外国語活動の意義や重要性が浸透してきました。

指導主事として中学校を訪問していても、英語科の先生方から、小学校で外国語活動に取り組んできた生徒は「英語に対する抵抗感がない」「音声面での理解が高く、反応がよい」「ペアやグループでの言語活動に慣れている」「言いたいことがうまく言えない時もあきらめず伝えようする」等、外国語活動の成果をうかがうことが多くありました。

新学習指導要領による教育課程において第3、4学年で外国語活動を実施するにあたり、これまで高学年で育んできた外国語活動の成果を失うことがないよう十分配慮した上で、中学年という発達段階に応じた外国語活動を計画・実施していく必要があります。

本書では、先生方が、新学習指導要領の趣旨と英語教育改革の流れを正しく理解した上で、文部科学省が提案した新教材 “Let's Try！” を活用して、目の前の子どもたちの実態に応じた「心が動く外国語との出会い」や「心が通い合う体験」を演出できるよう、さまざまな活動例を紹介しています。初めて外国語活動を担当する先生方にもわかりやすくご覧いただけるよう、英語教育推進リーダーをはじめとする各地域で外国語教育の中心となっている先生方にアイディアをいただきしておりますので、是非活用いただきたいと思います。

外国語活動の先にある外国語科においては、「英語で何ができるようになるか」といった新しい時代に必要となる資質・能力の育成が掲げられていますが、学校教育で行われる外国語教育は “Training” ではなく、子どもたちが、将来きっと花を咲かせられるような「種まき」の “Education” であることは言うまでもありません。

今後の外国語教育は、言葉や心を通わせにくく、国と国との関係もさざくれ立っているこの世界に、平和をもたらすような人材を送り出す一翼を担っています。その第一歩となる外国語活動が、前述の「種まき」の役割を果たしていくことを信じて進んでいきたいものです。

岩手県教育委員会主任指導主事 佐々木 淳一

CONTENTS

指導案をもとに目の前の子どもにふさわしい授業を.....	2
初めて外国語活動を担当する先生方へ	3

第1章 新教材 “Let's Try！” の活用とポイント

学習指導要領改訂のポイント	8
中学年用教材のポイント	10
活動のポイント	12
評価のポイント	14

第2章 “Let's Try！1” 35 時間の指導案

Unit 1 Hello! あいさつをして友だちになろう	16
Unit 2 How are you? ごきげんいかが?	20
Unit 3 How many? 教えてあそぼう	24
Unit 4 I like blue. すきなものをつたえよう	32
Unit 5 What do you like? 何がすき?	40
Unit 6 ALPHABET アルファベットとなかよし	48
Unit 7 This is for you. カードをおくろう	56
Unit 8 What's this? これなあに?	66
Unit 9 Who are you? きみはだれ?	76

第3章 “Let's Try！2” 35 時間の指導案

Unit 1 Hello, world! 世界のいろいろなことばであいさつをしよう	88
Unit 2 Let's play cards. 好きな遊びをつたえよう	92
Unit 3 I like Mondays. 好きな曜日は何かな?	100
Unit 4 What time is it? 今、何時?	106
Unit 5 Do you have a pen? おすすめの文房具セットをつくろう	114
Unit 6 Alphabet アルファベットで文字遊びをしよう	122
Unit 7 What do you want? ほしいものは何かな?	130
Unit 8 This is my favorite place. お気に入りの場所をしょうかいしよう	140
Unit 9 This is my day. ぼく・わたしの一日	148

第4章 指導要録記入例 & 通知表文例集

[Let's Try！1] Unit 1~9 指導要録記入例 & 通知表文例集	160
[Let's Try！2] Unit 1~9 指導要録記入例 & 通知表文例集	169

第5章 そのまま使える！ クラスルーム・イングリッシュ

そのまま使える！ クラスルーム・イングリッシュ	180
-------------------------------	-----

中学年用教材のポイント

1 中学年用教材 “Let's Try!” のポイント

小学校中学年用教材の “Let's Try!” は、高学年の外国語科で定着を図る前段階として、「失敗を恐れず外国語によるコミュニケーションに挑戦してほしい」という願いが込められたネーミングとなっている。中学年では、“Let's Try!” で外国語に慣れ親しみ、高学年では教科書や “We Can!” 等の教材を用いて、中学年で慣れ親しんだ語彙や表現を様々な場面で繰り返し使わせながら、「聞くことができる」「話すことができる」「伝え合うことができる」といったスキルに高めていくよう系統性に配慮されている。



文部科学省が示した “Let's Try!” のポイントは、次の3点である。

- 「聞くこと」「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」の三領域における言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成
- 初めて外国語に触れる児童が積極的に話したり聞いたりするようにするために、中学年という発達段階に合わせて、扱う教材や活動、語彙、表現を設定
(例) 中学年児童にとって身近な動物、食べ物、文房具、教室名など
- 扱う語彙や表現が使われる必然性のある場面を設定し、児童が語彙や表現の意味を推測したり繰り返し使ったりしながら体験的に身に付けることができるよう工夫

“Let's Try!” では、新学習指導要領の目標に合わせて、「身近で簡単な事柄」を話題や題材として取り扱い、児童が興味をもって、思わず「話したい」「聞きたい」「やってみたい」と感じられる場面が設定されている。

また、言語活動の充実を図るために、“Let's Try!” の補助教材として、デジタル教材とワークシートも使用できる。デジタル教材は各小学校にDVD-ROMで配付されており、“Let's Try!” における全ての誌面・活動において活用することができる。教材の誌面そのままに表示される画像の動画ボタンをクリックすると、映像が表示され、英語の音声が流れる仕組みとなっている。

ワークシートは文部科学省の「小学校外国語・外国語活動 平成30年度使用新教材ダウンロード専用サイト」からダウンロードして使用するものであり、デジタル教材に収録された音声や映像を参照しながら活動を行う際に使用される。<http://mext-next-kyozai.net/top/index.html>

2 “Let's Try!” において設定されている活動

各単元においては、従来の “Hi,friends!” で行われてきた活動をベースにしながら、Let's Listen / Watch and Think / Play / Chant / Sing や Activity 等の多様な活動が設定されている。各活動のイメージ（例）と関連する領域を以下に示す。

活動の名称	活動のイメージ（例）	言語活動 関連領域
Let's Listen	●英語を聞き、必要な情報を聞き取ったり概要を捉えたりする。 ●英語と日本語の音声の違いについて気付く。	聞くこと 話すこと
Let's Watch and Think	●デジタル教材等の映像を見ながら英語でまとまりのある話を聞き、英語の意味を推測したり話の概要を捉えたりする。 ●聞き取った内容に関する質問に答える。	聞くこと 話すこと
Let's Play	●インタビューゲーム等を通して、英語の音声を繰り返し聞いたり言ったりして、慣れ親しむ。	聞くこと 話すこと
Let's Chant Let's Sing	●設定された表現について、英語のリズムやイントネーションに自然に慣れ親しむ。 ●英語の歌に合わせて体を動かしたり、実際に歌ったりする。	聞くこと 話すこと
Activity	●単元で学習した表現などを使って、友だちと自分の思いや考えを伝え合ってコミュニケーションを図る。	聞くこと 話すこと

3 指導のポイント

(1) 児童が新しく出会う語彙や表現が、自然に用いられる必然性のある場面を設定する。

新出の語彙や表現を提示する際、安易に意味を日本語で与えるのではなく、それらが使われる必然性のある場面の中で、それらが使われる様子を繰り返し見たり聞いたりすることで、児童にそれらの意味を推測させるようにする。Let's Watch and Thinkは、映像の視聴を通して、児童が推測し、思考を働かせることをねらいとしている。

(2) 英語を使うことを通じて慣れ親しませる。

中学年という発達段階を考えると、言語の規則を明示的に指導し、その規則を運用できるように訓練するというプロセスはなじまない。新学習指導要領において「実際に英語を用いた言語活動を通して、次の事項を体験的に身に付けることができるよう指導する。」と記載されていることからも、聞いたり話したりする機会をたくさん与え、教師や友達とのやり取りを通して英語に慣れ親しませることが重要である。

(3) 学級担任（指導者）は、英語を使おうとする際のモデルになる。

授業中、児童が英語を使う言語活動を行うためには、教師自身も積極的に英語を使うことが望まれる。英語使用の得意不得意を問わず、教師が英語から逃げずに思いを伝えようとしている姿こそが児童の心を動かす。また、安心して表現できる雰囲気づくりにもつながる。

① 単元目標と評価のポイント

- (1)名前を言って挨拶をし合う。(思考・判断・表現)
 (2)相手に伝わるようにくふうしながら、名前を言って挨拶を交わそうとする。(学びに向かう態度)

② 言語材料（表現）

Hello. Hi. I'm Fumika. Goodbye. See you.

③ 指導案

時	子どもの活動	教師の活動	留意点(○評価)
挨拶 (7分)	1. 挨拶をする。 Hello, Mr. (Ms.) Kawano. I'm good. How are you? 2. ペアで挨拶をする。 3. スモールトークを聞き、内容についての質問に答える。	○笑顔で、大きな声で挨拶をする。 Hello, everyone. How are you? I'm happy, thank you. ○ペアで挨拶をさせる。 ○スモールトークをする。 •「先生はスポーツ選手の誰が好きと言いましたか。」	<ul style="list-style-type: none"> •分かりやすい語を使う。
導入 (10分)	1. めあてを読んで確認する。 友だちとあいさつをして名前を言い合おう。 2. グループ(4人組)で名前を言って挨拶をする。	○本時のめあてを確認する。 友だちとあいさつをして名前を言い合おう。 ○グループ(4人組)で名前を言って挨拶をさせる。	<ul style="list-style-type: none"> •4人グループにする。
展開 (20分)	1. 音声を聞いて、テキストの子どもと国旗を線で結ぶ。 •再度聞き、ペアで答え合わせをする。 •再々度聞き、正解を確認する。 2. カードに、自分の名前を書く。 3. 教室全体を使って、友だちに名前を伝えながら挨拶をして、カードを交換する。 4. 受け取ったカードの名前をテキストに書き写す。	○Let's Listen(p.3)を聞いて、テキストの子どもと国旗を線で結ばせる。 •再度聞かせ、ペアで答え合わせをさせる(正解は伝えない)。 •再々度聞かせ、正解を伝える。 ○カードに自分の名前を書かせる。 ○教室全体を使って、友だちに名前を伝えながら挨拶をして、カードを交換させる。 ○受け取ったカードの名前をテキスト(p.5)の欄に書かせる。	<ul style="list-style-type: none"> •名刺大のカードを配る。 •名前は日本語で書く。 ○名前を言って挨拶を交わそうとする。
振返 (8分)	1. 振り返りカードを書く。 2. 授業の感想を述べる。 3. 挨拶をする。 Thank you very much. Goodbye, Mr. (Ms.) ~. See you.	○振り返りカードを書かせる。 ○子どもを指名し感想を述べさせる。 ○挨拶をする。 That's all for today. You did a great job! Goodbye, everyone. See you next time.	<ul style="list-style-type: none"> •挙手ではなく指名で行う。

授業を充実させるためのポイント

1.スモールトーク

2回目以降のスモールトークでは、前回に少し内容を加えてボリュームを増やし、聞く量を徐々に増やしていくことが大切です。少ない量だけを聞いていると、それ以上の量を聞く力は伸びてはいきません。

Good morning. I like ice skating. I like Hanyu Yuzuru. Do you know about Hanyu Yuzuru? He is a good skater. He is from Sendai. He is cool. I like him very much.

2.ペア活動からグループ活動、そして全体活動に

主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)の授業を行うには、まず基礎基本をおさえることです。外国語活動では、表現や語彙がほとんど分からないままにペア活動やグループ活動に進ませても効果は期待できません。

ある程度の表現や語彙を理解させた上で、活動を進め、多くの回数聞いたり話したりすることで、慣れたり定着したりしていくものです。したがって、基礎基本があつてのペア活動やグループ活動であることを忘れてはいけません。

3.振り返りカードのあり方

各学校により、振り返りカードの記入方法はさまざまです。授業に対する評価段階を数字で示したり(よくできました: 3、まあまあできました: 2、できなかった: 1など)、ニコニコマークにチェックしたりなど多岐に渡っています。

しかし、こうした簡単な記入では、子どもは雰囲気でチェックしてしまうので、正確さの点あまり信用できない方法です。

そこで、必ず、「授業で分かったこと(知ったこと)」「授業でできたこと(できなかったこと)」などを書かせて、振り返りながら授業内容を考えさせる場面を組み込みます。それにより授業の中身をしっかり確認されることになります。また、書くことの練習にもなります。

● 評価の注意点

単元目標は「相手に伝わるようにくふうしながら、名前を言って挨拶を交わそうとする。」ことなので、展開の3の場面で、子どもたちが積極的に名前を言って挨拶を交わそうとしているかどうかを見取りますが、もじもじしていたり、教室の片隅にたむろしていたりする場合は、教師が子ども同士のバリアを剥がすように隈無く子どものところを回り、会話ができる雰囲気を創り出します。

評価は、子どもを評価するだけではなく、子どもを指導できているかどうかの教師についての評価でもあることを忘れてはいけません。

1. 指導要録記入例

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○歌やチャンツを進んで練習し、1~20の数の言い方や尋ね方に慣れ親しんだ。 ○様々な国の数の言い方に関心をもち、映像に続いて繰り返した。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○日中韓の数の言い方で類似しているところに気づき、なぜ似ているのか興味をもった。 ○色を塗ったりんごの数をすすんで尋ね、同じ数の友だちに共感する表現を伝えた。
学びに向かう態度	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTの発音や口の動きを意識し、繰り返そうとした。 ○漢字紹介をする友だちの話を笑顔でうなづきながら聞いた。

2. 通知表文例集

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○元気よく歌やチャンツを練習し、1~20の数の言い方や尋ね方に親しました。 ○世界の様々な国の数の言い方に関心をもち、特にスペイン語の1~5を覚えてみんなの前で発表しました。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○日本と中国と韓国は、数の言い方で似ている音がいくつもあることに気づき、どうして似ているのかと疑問を持ちました。 ○色をぬったりんごの数が同じ友だちに対し、“Me, too!”と声をかけました。 ○好きな漢字クイズに正解した友だちに対し、“That's right!”と伝えました。 ○画数などヒントを出し、友だちに好きな漢字をクイズ形式で紹介した。
学びに向かう態度	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTの先生の発音をよく聞き、口の動きもまねしようと一生懸命に練習しました。 ○友だちが漢字紹介をするのを笑顔で相づちを打ちながら聞くことができました。

1. 指導要録記入例

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○歌やチャンツを通じて、色や好きなものを伝える表現に慣れ親しんだ。 ○友だちの好きな色を聞いて共感したり、自分の好きな色を伝えたりした。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○映像で、虹の色の捉え方は国によって違うことに気がついた。 ○友だちと好きな色を尋ね合い、共感した。 ○英語で何というのかわからない語彙をALTにすすんで尋ねた。
学びに向かう態度	<ul style="list-style-type: none"> ○好きなものを伝える自己紹介を堂々とみんなに伝わる声の大きさで発表した。 ○友だちの自己紹介に相づちを打ち、意欲的に聞いた。

2. 通知表文例集

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○すすんで歌やチャンツを練習し、色や好きなものを伝える表現に親しました。 ○友だちの好きな色を聞いて共感する表現を伝えたり、自分の好きな色を伝えたりしました。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○映像を見て、国によって虹の色のとらえ方が違うということに気がつき、発表しました。 ○テキストに出ていない色（水色）を英語で何というのか興味をもち、ALTの先生に尋ねることができました。 ○自己紹介をした友だちに対し、好きなものを尋ねることができました。
学びに向かう態度	<ul style="list-style-type: none"> ○みんなの前で、好きなものを伝える自己紹介をみんなに伝わる声の大きさで堂々とすることができます。 ○自己紹介をする友だちに対し、共感する表現を伝えながら聞くことができました。